

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年2月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は4から6に増加。「減少した」業種は8から7に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から7に増加。「減少した」業種は16から15に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は5から7に増加。「悪化した」業種は10から6に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は6のまま変化なし。「減少した」業種は7のまま変化なし。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は5から8に増加。「減少した」業種は15から14に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は4から9に増加。「悪化した」業種は14から12に減少。

製造業

しよゆ製造

【県内全域】

円安傾向に進んでいるので(主な原料(小麦・大豆)は大部分が輸入品であるので)、コストアップが懸念されるが、販売価格への転嫁は非常に厳しいと思われる。

豆腐製造

【県内全域】

原料である大豆、油の価格が高騰、予想以上の上げ幅となっている。原料上昇を商品価格へ転嫁できずに苦しい状況である。

めん類製造

【県内全域】

2月27日、農水省は25年4月期の政府売渡小麦価格を発表。各麦平均で対前年比9.7%上昇。国際相場の値上がり円安も影響か。原料小麦粉としては、数カ月遅れで製粉会社から値上発表がある予定。

乳製品

【県内全域】

全社とも牛乳類の安売りが目立つ(決算時期だから特に)。

製材

【県内全域】

好転の兆しが見える。建材類の品不足が目立ち値上げの傾向。

印刷

【県内全域】

2月の受注売上は、1月と比較し若干好転した模様。実稼動日数は1月と変わらないが、年度末に向けて仕事が動き出したようだ。

但し前年比では悪化の印象。

生コン製造

【県内全域】

需給のタイト化が見られる。セメント、骨材の値上げ要求が強くなっており、生コンも各地で値上げの動きが出ている。

電気鍍金

【千葉】

円安・株高になった関係で輸出関連の企業に薄日が出てきた感じ。本来の景況感にはまだ流れが弱い。

鉄工

【千葉】

各社動向は、未だ回復途上であり業況不十分。そのような中であるが、期待感をもって注視しているものとして2点、ひとつは政権交代後の円安・株高を背景にムード一変、実態好転への波及期待であり、さらに、中国・米・ヨーロッパとそろって外需不振、そろそろ上昇との期待も大きい。

機械部品製造

【野田】

全体に横ばいの状況。業界動向としては、期待感によるものか、見込み生産が見える。

機械部品製造

【流山】

燃料費の高騰で今後その他の原材料、資材等の価格が値上がりすることから影響が出る。電気料金が値上げになり、製造コストが増加、企業の負担は大きい。

【機械部品製造】

既存取引量産輸出主体は低調。

国内医療、スタンド向パイプは増注傾向。業界動向は、開発新規及び問い合わせ案件は増えている。

【金属製品製造】

景気回復ムードはあるが、実際の業績に表れていない。

【土砂採取】

生コン価格上昇のトレンドの後押しをするためにも生コン各社への細骨材引渡し価格を値上げしているとの報告もある。

【非製造業】

【総合卸売】

【事務機器・用品】 年度末に向かい、事務機器・用品、学童用品の出荷が前年同期比やや増加。

【漬物製造・卸】 野菜、特に菓物の価格高止まり、コストアップ。販売価格への転嫁難しく、燃料費の高騰もあり、採算性低下。

【食肉卸売】

枝肉価格が好転。円安により、飼料価格の高騰が懸念される。

【建築材料卸売】

品薄感背景に、セメント値上気運。7月頃から本格化する気配。東北特需及び消費税駆込み需要を見込んで新年度出荷は全国平均

で横這い程度。千葉は工事進捗遅れの為、現在前年割れ続く。新年度も今年度を下回ると考えられる。

【自動車解体】

さらに円安傾向が進み、スクラップ価格も月初より約10%上昇、前年同月と同レベルに回復。ただし、新車販売は低調なため廃車発生は低レベルが続く。

【乾物卸売】

昨年比べ生産量は2割強増加しており、相場は終盤に向けて海況を見ながらの弱い展開。

【小売】

厳しい寒さが続き、春物衣料品、装飾品の動きが悪い。今月は営業日数も少なく、顧客の買い控えもあり、非常に厳しい。

【電気機器小売】

1月に引き続き、2月も大変厳しい。先月より商品の動きがない。益々悪くなる気がする。円安の影響でメーカーは回復傾向に向かいつつある。販売は大型店、零細店限らず大変弱い。

【青果小売】

1〜2月はともに営業日数が少なく売上が取りにくい。今年に閑しくは、野菜・果物ともに高値が続き、販売しにくい状況であった。

特に雪により客足が伸びてなかったのが最大の理由かと考える。

【中古車仕入・販売】

タマ不足は下取り車の減少により依然として続いている。オークションでの成約率の上昇は同様に続いており、外国人による海外輸出も円安の動きで好調な状況。

【小売】

寒かったが、さすがに2月になると冬物商品の動きは収まってしまった。食品等は若干減。野菜関係の値上がりあり。新入学関連品は単価が下がった。

【小売】

景気回復の期待感はあるが、未だ消費者の購買力が上向いていないという実感はない。

【印鑑小売】

2月は営業・店売共に前年割れ。特に営業は1月・2月と連続で大きく前年と比べ売上減少。

【小売・サービス】

物販においては端境期になり、良いという事業者は全くなし。飲食は二極化が進行、低価格志向の店は健闘している模様。

【建設揚重】

前月同様の状況で好調が継続するも何時まで続くか不安視している。

。特に最近の円安で、燃料費その他材料費が値上がりしている。

【遊覧船】

10月〜1月の4ヶ月は昨年比マインナスが続いていたが、2月は20%の前年比増となった。

【一般廃棄物処理】

1月の景気がとても悪かったため、前月比は好転。来月の繁盛期に期待したい。

【学習塾】

個々の塾の経済状況にはばらつきが出てきている。生徒が集まる塾と集まらない塾といった具合に。

【ソフトウエア】

多少好転してきていると感じる企業が出始めている。

【建設】

当連合会加入組合員の受注額は、4,424百万であった。前月比で1,406百万円の減少、前年同月比でも984百万円の減少。地域的には安房を除く全地域で減少。

【貨物運送】

物は動いている気配がするものの2月は日数が少ないため売り上げも伸びず良い気がしない。

【輸出入】

毎月2月は売上減の月、年間でも一番良くない月である。